



真宗大谷派 存明寺通信

No.220

2024年(仏歴2555年)7月6日

どろぬま  
泥沼の  
泥に染まらぬ  
蓮の華

信証)  
高<sup>こうげん</sup>原<sup>ろくじ</sup>の陸<sup>れんげ</sup>地<sup>しやう</sup>には、蓮<sup>れんげ</sup>華<sup>を</sup>生<sup>しやう</sup>ぜ<sup>ず</sup>ず。  
卑<sup>ひしつ</sup>湿<sup>おひじ</sup>の淤<sup>い</sup>泥<sup>でい</sup>に、いまし蓮<sup>れんげ</sup>華<sup>を</sup>生<sup>しやう</sup>ぜ<sup>ず</sup>ず。  
(親<sup>しん</sup>鸞<sup>らう</sup>) 教<sup>きやう</sup>行<sup>ぎやう</sup>

お寺の門前に、今年も蓮がきれいな華を咲かせています。蓮の華は、高原のきよらかな清流では咲きません。「卑湿の淤泥」といわれるような、ドロドロの泥沼でなければ、蓮は咲かないのです。

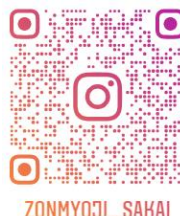
私たちの中にも泥まみれの「煩惱」があります。怒ったり、そねんだり、ねたんだり、欲張ったり・・・。仏さまは、そのような私たちをけっして見捨てずに、美しいさとり<sup>みす</sup>の華を咲かせようとして、今も確かにはたらき続けているのです。

そのような仏さまに出会う歩みを、共にしていきたいと思います。  
(真宗大谷派 存明寺)



↓ インスタ ↓

↓ 存明寺 HP ↓



存明寺のHP <https://zonmyoji.jp>

存明寺 Instagram と HP 定期的に更新中!

お寺の活動や諸行事、掲示板の言葉や花手水、法話動画など、定期的に更新中です。ぜひご覧ください。



酒井 義一  
さかい よしかず

1959年、東京都生まれ。真宗大谷派存明寺住職。同朋会館教導、ハンセン病問題に関する懇談会委員、青少年センター研究員。自坊では、樹心の会、グリーンフケアのつどい、こども会、こども食堂などを主宰。著書に『人間回復への道』『僧侶31人のぼけっと法話集』『子どもと読みたいほとけさまのおはなし』(東本願寺出版)など。

※守秘義務遵守のために、事例は脚色・再構成してあります。

ある日の夕方、お寺に電話がかかってきました。相手は若い男性。以前にグリーンフケアのとつどいに3回参加したことがある、とのことでした。ああ、あの人が、とすぐにわかりました。その人は殺人事件によって恋人を失うという経験をお持ちの人でした。私自身あまり出会ったことのない経験をお持ちの方で、私の対応の力不足を痛感していた出会いでした。その人が、「今日はお礼を言いたくて」というのです。詳しくお話を伺いしてみました。その頃、その人は「死のう」と思ってお寺にやってきました。そして、自分のお話を流しながら、真剣に聞いてくれたというのです。さらに、幸せそうに見えたその場の人々が、実は大切な方と別れたという経験をお持ちで、それぞれの経験や自らの思いを、自分にまで届けて

くれたというのです。そして、世の中で自分が一番不幸だと思っていた彼は、悲しみや辛さを抱えながらも今を懸命に生きようとしている人がいることを実感し、「死のう」から「生きよう」へと、思い直したというのです。そう感じられたことへのお礼の電話、とのことでした。その時に私が感じたことは、場に出会うことの大切さです。悲しみや辛さを語り合い、聞き合う場が開かれる。するとそこに人々が集い、その場にいのちが宿るのです。自らの体験を語るという作業を通して、場が力を持つのです。それは、聞く力と語る力、そして悲しみを抱いて立ち上がろうとする力なのだと思っています。人は場に出会い、場によって心を開かれ、現実を背負って歩みだすべき存在なのではないでしょうか。

### 場の力

—「死のう」から  
「生きよう」へ—



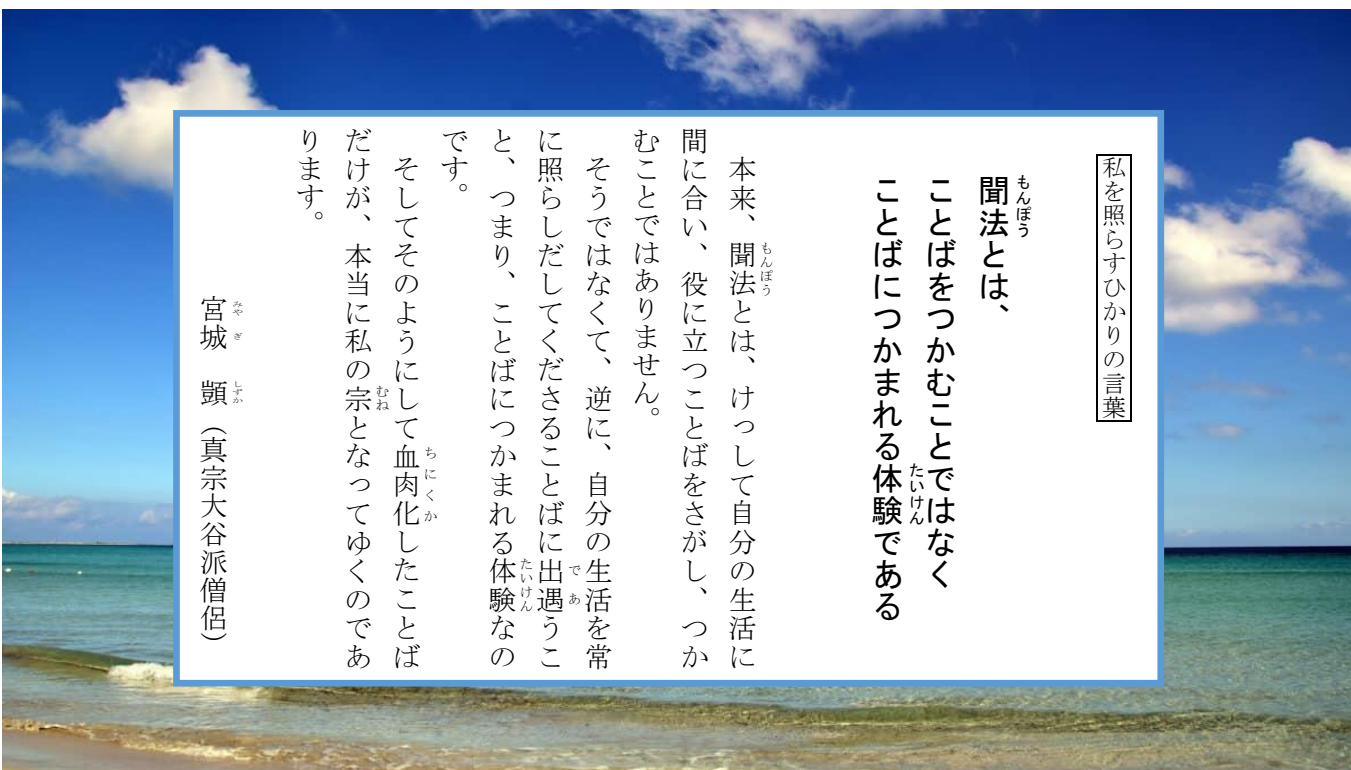
相談室  
だより

【第28回】

私たちが抱える様々な苦しみや悩みに、各分野の先生が寄り添います



↑『名古屋御坊』(真宗大谷派名古屋別院発行)に書かせていただいた文章をここに転載します。(2024年7月号より)



私を照らすひかりの言葉

もんぼう  
聞法とは、

ことばをつかむことではなく  
ことばにつかまれる体験である

本来、聞法もんぼうとは、けっして自分の生活に間に合い、役に立つことばをさがし、つかむことではありません。

そうではなくて、逆に、自分の生活を常に照らしだしてくださることばに出遇うこと、つまり、ことばにつかまれる体験なのです。

そしてそのようにして血肉化ちにくかしたことばだけが、本当に私の宗むねとなつてゆくのであります。

宮城 顛みやぎ すすき  
(真宗大谷派僧侶)



永代経法要で出会ったひかりの言葉

## 荒山 淳さん・ヒナ タカコさん 語録

5月3日、コロナからの回復事業としての「永代経法要」が行われました。多くの方々にご参詣をいただきました。当日は、荒山 淳さんの法話、多くの僧侶による永代経法要・ヒナタカコさん

(シンガーソングライター・真宗高田派の僧侶)のコンサート・そして門徒交流会が行われました。当日出会ったひかりの言葉から。

### ■荒山 淳さん (名古屋教区)

- ・ 帰るべきところに帰らずに、帰ってはならんところに行ってしまうっている。
- ・ 頭が下がってみれば、広大な世界が開かれるのである。
- ・ 出会う。言葉では簡単だが、本当に出会ったことにはならない。文句ばかり言っている。そこを離れて、阿弥陀の本願に帰ろう。
- ・ 亡くなった人にいいところに行

くんだよ、という。逆だろう。いいところに行くべきなのは、私たちの方だ。

### ■ヒナ タカコさん (歌手)

- ・ コンサートの中の歌の言葉から。
- ・ 闇の中でこそ 光は輝く
- ・ 小さな小さな炎も 誰かに届くでしょう
- ・ 「愛の灯」より
- ・ 会いたい人がいます
- ・ だから生きていけます
- ・ 「むこう岸」より
- ・ あなたが背負った悲しみさえも
- ・ あなたのすべてを奪えはしない
- ・ 「雨のちくもり」より
- ・ いずれの命 いずこの命
- ・ みんな同じところへ帰ろう
- ・ 「いずこの空」より

## 永代経法要(5月3日) 写真館



↑ヒナ タカコさんコンサート



↑法話は荒山 淳さん (名古屋教区)



↑法要当日の本堂内の様子



↑ロビーでの最後の集合写真



↑法要後の門徒交流会



↑ゲストを交えての記念写真

**お寺のひろば 2024年（令和6年）**

7月13日（土） 11時と13時 おぼん法要  
無量寿法要・正信偈の唱和・お話し

**7月21日（日） 10時半 夏の法話会**  
お話し：和田英昭さん（岐阜高山教区）  
**「ただいま参加者募集中！」**

9月6日（金） 13時 おそとうじの日  
9月14日（土） 14時 樹心の会  
お話し：井ヶ瀬恵子さんと佐藤友成さんと松本維邦さん

内容：勤行・お話し・語り合い・全体会

**9月22日（日） 11時と13時 秋のお彼岸法要**  
9月28日（土） 14時 グリーフケアのつどい  
10月12日（土） 14時 樹心の会

お話し：岸木勉さんと酒井義一住職

10月18日（金） 10時 おみがきのつどい  
10月22日（火）～24日（木） 真宗本廟奉仕団  
大人の修学旅行 **「ただいま参加者募集中！」**

11月2日（土） 14時 報恩講のゆうべ  
11月3日（日） **未定** 報恩講

お話し：田中顕昭さん（九州教区・長崎県）  
11月16日（土） 14時 樹心の会 **「9日から変更」**  
お話し：城ノ下恭博さんと酒井浩美坊主

12月14日（土） 14時 樹心の会  
お話し：長島巖さんと酒井大樹副住職

12月21日（土） 14時 グリーフケアのつどい  
**1月1日（水） 10時 修正会**  
真宗聖典輪読会（副住職主宰） 毎月1回  
火曜日 2時～5時 輪読・発題・語り合い

※こども会・こども食堂・子育てサロンも、  
随時開催中です。

**お寺につどう人びと**



↑親鸞に人生を学ぶ「樹心の会」



↑副住職が主宰する「聖典輪読会」

**「ただいま参加者募集中！」**

**夏の法話会**

日時 7月21日（日） 10時半  
会場 存明寺  
講師 和田英昭さん（岐阜高山教区）  
講題 こんな生き方は、イヤだ。  
会費 2000円  
※只今の参加者 26名です。  
2日前まで申し込みを受け付けています。

**おとなの修学旅行 真宗本廟奉仕団2024**

日時 10月22日（火）～24日（木）  
場所 京都東本願寺（ご本山）  
講師 和田英昭さん（岐阜高山教区）  
費用 48,000円  
内容 両堂参拝・法話・座談・清掃奉仕等  
※只今の参加者 7名です。

**【あとがき】**

▼ここ世田谷では、いち早くニイニイゼミが鳴き始めました。子どもの頃は、夏休みが待ち遠しかったので、「ジィ〜」と「〜」という、あのセミの鳴き声を聞く、なんだかワクワクとしたものです。

▼あれから半世紀。夏は酷暑となり、「熱中症警戒アラート」などという言葉も生まれました。還暦を過ぎた身には、この暑さはこたえます。まさに殺人的。しかし、今もなお、夏が近づく頃のセミの声を聞くと、ワクワク感が私の中に蘇ってきます。それはまるで、いのちそのものの記憶が、私の中に宿っているかのようです。

▼3ページの荒山淳さんは、こう呼びかけています。「阿弥陀の本願に帰ろう」と。それは、いのちそのものに宿っている、人間の本来の願いなのではないでしょうか。本来帰るべき世界にこそ、さあ帰ろう！

住職 **義**

東京都世田谷区北鳥山4-15-1  
真宗大谷派 存明寺（ぞんみんやうじ）  
住職 酒井義一（しよんじ）（釋諦信）  
〒157-0061 TEL 03-3300-5057  
FAX 03-3300-5880  
E-mail : sakai@zomyoji.jp